

<認知症対応型共同生活介護用>

評価報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日 調査実施の時間	平成 19年 5月 17日 開始 10時30分 ~ 終了 15時00分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム あいら (鹿児島県)
評価調査員の氏名	氏 名 久留須 浩一 氏 名 福元 弘美
事業所側対応者	職 名 管理者 氏 名 内村 礼子 ヒアリングを行った職員数 (3)人

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4677500110		
法人名	社会福祉法人 恵仁会		
事業所名	グループホーム あいら		
所在地 (電話番号)	鹿屋市吾平町5324-2		(電 話) 0994-58-5539

評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島		
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号		
訪問調査日	平成19年5月17日		

【情報提供票より】(平成19年5月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	17人, 非常勤 1人, 常勤換算 11人

(2) 建物概要

建物形態	併設/ 単独	新築 /改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,900 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

(4) 利用者の概要(5月4日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名	
要介護1	3 名	要介護2	7 名			
要介護3	5 名	要介護4	2 名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	83.3 歳	最低	74 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医)青仁会 池田病院	医)誠心会 入佐内科
---------	------------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広々とした青い空と、とうもろこしや落花生の畑に囲まれたのどかな佇まいのホームである。市街地からはやや離れているが、地域の皆さんとの交流を積極的に行い、子供たちの訪問を受けたり行事に出かけたりすることで、入居者の皆さんは、地域の一員としての暮らしを続けている。健康管理や医療面の支援については、看護師が職員として配置され、協力医療機関との連携も充実しており、入居者やご家族にとって安心できる体制が整っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	入居者の権利義務の明示については、利用約款及び別紙に分かりやすく示されている。注意を要する物品の保管については、適切な保管場所を確保している。市町村との関わりについては、平成18年4月より、地域運営推進会議を発足し、市町村関係者に構成メンバーとして参加してもらい意見交換をしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解し、課題となった点については職員全体で話し合い、改善に向けた具体的方法を提案し実践している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームの現況報告をはじめ地域との交流促進、防災面での協力体制構築が話題となり、小中学生の体験学習等を通じて双方向の交流につなげたり、地域の協力を得た防災訓練が計画されたりしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会ノートを作成しており、直接告げられたこと以外にも、ご家族の言葉や様子からシグナルを受け止めて、全員で検討してサービスの改善に反映している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会や子供会、幼稚園、小中学校と、体験学習などを通じて交流しており、町内の有線放送や地元職員からも、行事や催しの情報を得て積極的に参加している。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所が独自で作上げた理念はあるが、地域密着型サービスとしての役割を具体的に示した内容への見直しはなされていない。	○	地域との交流など、積極的に取り組まれているので、それらのことが具体的に盛り込まれた理念の見直しに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念をミーティング等で話し合い、入居者の気持ちを共感できるように、具体的なケアについて確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や子ども会、幼稚園、小中学校と、体験学習などを通じて交流しており、町内の有線放送や地元の職員からも、行事や催しの情報を得て積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価および外部評価の意義を理解し、課題となった点については職員全体で話し合い、改善に向けた具体的方法を提案し実践している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出された意見や質問をもとに、勉強会を開催し報告するなど、サービス向上の為の取り組みが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護認定時や折に触れて、市町村や地域包括支援センターに相談したり、事業所の情報を提供したりしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の来訪時には、状態報告をしたり、便りを配布しており、金銭出納帳には確認印をもらっている。又、遠方のご家族に対しては、定期的に手紙で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会ノートを作成し、面会時のご家族の言葉や様子を細かく記載し、それを基に職員で検討会を開き、直接申し出された要望や不満でなくとも、シグナルとして受け止め、サービスに反映できるよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間や法人内での職員異動については、日ごろより交流の機会を作り、顔馴染みの関係を保ちながら、異動等による影響を少なくするように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は、同じ内容の研修を2回続けて実施することで、職員全員が受けられるように取り組んでいる。職員からの研修に対する要望や希望も受け入れ、外部研修にも積極的に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大隈地区のグループホーム協議会に加入しており、勉強会に参加したり交流の機会を設けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学に来ていただいたり、自宅へ職員が出向いたりして生活暦の理解に努めながら、入居のタイミングや方法を話し合い、ご本人の納得の上で入居していただくようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、ご本人の不安や苦しみ、喜び等を受け止めるとともに、料理や行事・言葉・昔の話・知恵等を学ばせていただきながら、共に支えあえるよう関係作りに取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員との会話や入居者同士の会話、独り言などの中から、表情や動きを細かく観察して真意を測ったり、思いを汲み取るように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	事業所独自のアセスメントシートを作成し、細かい生活動作を項目毎に記載し、ご家族に見てもらいながら職員と話し合い、介護計画へ反映するようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直し及び状態変化に応じて、随時見直しをご家族やご本人の要望を取り入れながら行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員として看護師が配置され、医療連携体制を活かした主治医や協力医療機関との連携が図られている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者やご家族の希望に沿って、通院介助や状態によっては訪問診療を依頼している。複数の病院受診の場合はご家族の協力を得ているが、基礎疾患については、職員が同行している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今のところ看取りの事例はないが、ご家族を交えて対応方針についての話し合いを行っている。入居時に看取り介護指針の説明書により説明し、同意を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録などの個人情報の取り扱いについては、入居時に説明し同意書をいただいている。生活場面では、失禁時など、自尊心を傷つけない言葉かけや対応を心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や就寝時間については、入居者のペースに合わせて、ご本人の気持ちを尊重しながら支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けを、入居者の力量に合わせて職員と共に行っている。又、テーブルを入居者と職員が共に囲み、穏やかな会話の中で食事を楽しむようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後からの入浴となっているが、希望や状況に応じていつでも入浴可能である。入浴の誘導が必要な入居者に対しては、会話や行動の中でタイミングを合わせながら行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の自宅にある季節の収穫物等を、他の入居者と一緒に訪問し収穫したり、門松作りを手伝ってもらうなど、皆さんの経験から力を発揮できる場面を作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事以外でも、買い物のあとに入居者の希望する場所に出向いたりして、なるべく多く外出の機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠しておらず、入居者に心理的な圧迫感を持たせないように配慮されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと、地区消防分団の防火訓練で、ホームを火災想定場所として実践的な訓練を行っている。運営推進会議でも地域の協力を呼びかけ、住民も参加しての防災訓練が計画されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士からアドバイスを受けながらメニュー作りを行っており、水分摂取量については一日の目安を立て、水分不足が起こらないように取り組んでいる。又、状態によっては、インとアウトのチェックを行い、病状変化の把握に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳敷きの集い場で洗濯物をたたんだり、中庭に植えてある野菜や花を眺めながら、生活観や季節感を楽しめる暮らしの場を整えている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	趣味の塗り絵や実習で訪れた学生からのプレゼントを飾ったり、自宅で使用していた家具や食器・位牌を持ち込み、その人らしく過ごせるよう配慮されている。		